

第7章 歴史文化資源の一体的・総合的な保存と活用

1. 関連文化財群の意義と考え方

地域や歴史的なつながり等共通のテーマで、歴史文化資源を一体として価値づけできるまとまりを関連文化財群といいます。

関連文化財群として取り扱うことによって、指定等文化財以外の歴史文化資源についても構成文化財としての価値づけが可能となるほか、相互に関連した歴史文化資源の多面的な価値を見出すことができます。これにより、単体の歴史文化資源だけではなく、その周辺環境やそれに関わる人の活動も評価でき、所有者や地域住民が歴史文化資源の保存と活用に関わっていくことのきっかけとなることを期待するとともに、観光客等にも新たな魅力を提示することで、地域振興の一助となることを目指します。

本市では今後、歴史文化資源の保存・活用を推進していくために第3章で整理した歴史文化の特徴を踏まえ、関連する歴史文化資源をストーリーでつないだ関連文化財群を以下の通り設定します。

瀬戸内市の関連文化財群のストーリー

- ①古墳と古代寺院
- ②炎と土の芸術
- ③海を通した文化の玄関口
- ④寺社に残る文化や政治の足跡
- ⑤日本刀の聖地と中世の商都
- ⑥中世の城館と豪族
- ⑦島々が産する花崗岩と文化財
- ⑧岡山藩筆頭家老伊木家と虫明
- ⑨明治以降の文化を生み出した人々
- ⑩ハンセン病と瀬戸内市

2. 関連文化財群及びその保存活用計画

(1) 古墳と古代寺院

○関連文化財群のストーリー

関連文化財群のストーリー

瀬戸内市には、大小合わせて 500 基ほどの古墳が存在します。特に長船地域では、花光寺山古墳、築山古墳という墳長 80m を超える前方後円墳があり、牛窓地域には、牛窓天神山古墳、黒島 1 号墳、鹿歩山古墳という同じく墳長 80m を超える前方後円墳があります。

これらの古墳は形態から、埋葬されている豪族の大和朝廷とのつながりがうかがえ、規模からは製塩や須恵器生産、海の支配・交易などで富を得ていたことがうかがえます。

また、古代寺院として服部廃寺、須恵廃寺が長船地域に存在します。

構成文化財

花光寺山古墳【県】	築山古墳【県】	二塚山古墳【県】	鹿歩山古墳【県】
天神山古墳【市】	黒島 1 号墳	阿弥陀山古墳群	高砂山古墳群
桂山古墳群	服部廃寺	須恵廃寺	

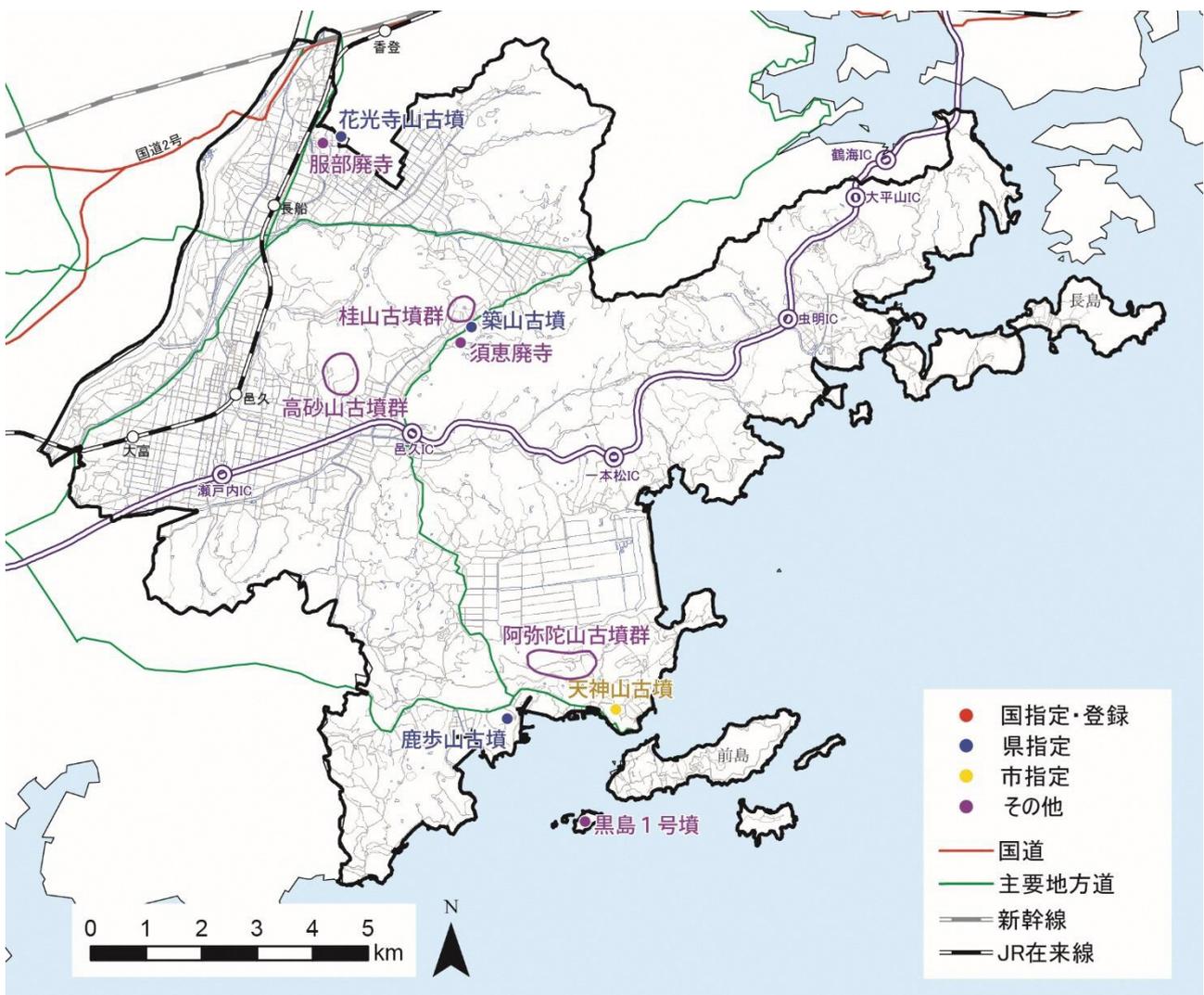


図 28 構成文化財の位置

○措置

保存・活用に関する措置 ※番号：方針との対応		措置の内容	取組主体					事業計画期間			財源
			地域	管理者	専門家	支援団体	行政	短期 (1～3年)	中期 (4～6年)	長期 (7～10年)	
古墳現状調査	1-1	古墳の現状を調査し、保存と活用の方向性を協議する。	△		○	○	◎	←————→			国・市
古墳と古代寺院等の紹介パンフレット作成	1-2	古墳や古代寺院を市内の有力豪族や古代産業等と関連づけて紹介するパンフレットを作成する。			△	◎	○	←————→			国・市
古墳案内ガイド育成	3-1	古墳案内のガイドの育成に対して情報提供等の支援を行う。	△			◎	○	←————→			国・市
古墳解説・案内看板設置	3-2	古墳を訪れる人に分かりやすい解説板や案内板を設置する。	◎		△	○	○	←————→			国・市・民間
古墳巡りルートの整備	3-2	市内にある約500基の古墳を、エリアや訪問し易さによってグループ分けし、訪れやすいように整備する。	△			◎	○	←————→			国・市・民間
ドローン・VRによる古墳解説映像の作成	3-2	ドローンで古墳を空中から撮影したものや研究成果を分かりやすく映像化したものをARやVRなどのコンテンツにまとめ、観光資源や教育資源として活用する。	○			◎	△	←————→			国・市・民間

※ ◎ 主体として取り組む ○ 連携、協力を行う △ 協力体制を整えておく

(2) 炎と土の芸術

○関連文化財群のストーリー

<p>関連文化財群のストーリー</p> <p>主に古墳時代から奈良時代にかけて、現在の瀬戸内市から備前市にかけての広範囲な地域で須恵器が焼かれていました。これらは、一般に使用されるもののほか、古墳の副葬品として、また役所や寺院などで使用され、都にも供給されていました。</p> <p>また、虫明地区では、江戸時代後期以降、領主の伊木氏の主導で京焼の流れをくんだ虫明焼が作陶され始め、現在でも茶道関係者を中心に多くの方に愛用されています。</p>	
<p>構成文化財</p> <p>寒風古窯跡群【国】 備前焼製作技術〈森才蔵（陶岳）〉【県】</p> <p>備前焼製作技術〈隠崎隆一〉【県】 虫明焼製作技術〈黒井完治（千左）〉【県】</p> <p>亀ヶ原1号窯跡【市】 虫明焼68種96点【市】</p>	

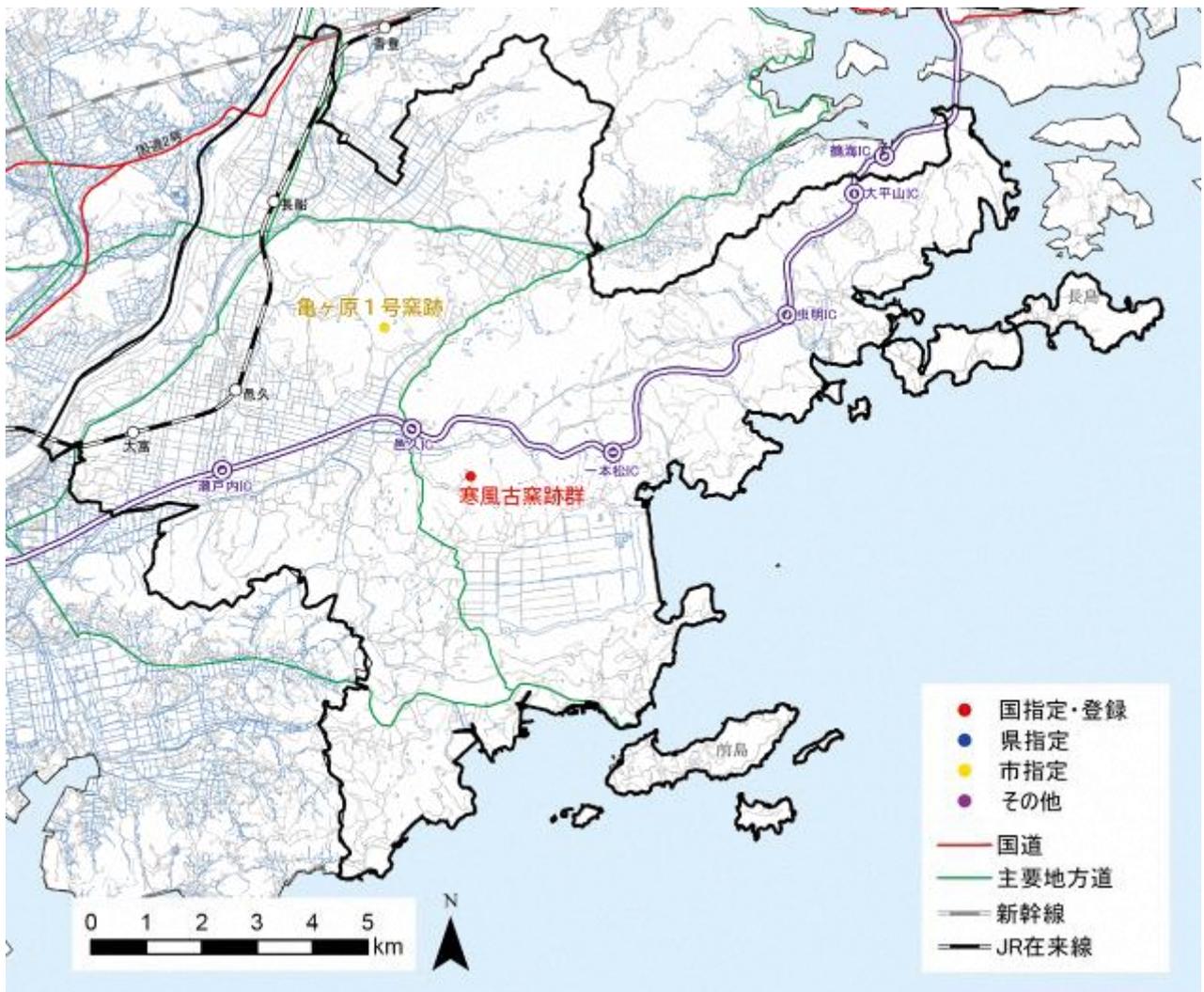


図29 構成文化財の位置

(3) 海を通した文化の玄関口

○関連文化財群のストーリー

関連文化財群のストーリー

牛窓は、古代より良港として栄え、中世には海運で大きな経済力をもちました。ここには、菅原道真、平清盛、足利義満などの著名な人物が訪れています。

江戸時代には、朝鮮通信使の寄港地となり、唐子踊のような特徴的な民俗芸能を今に伝えています。本蓮寺には通信使の書が残り、これらの書の一部はユネスコ世界の記憶に登録されています。

海運などにより栄えた牛窓や尻海に残されているだんじりには、宮大工や船大工の技術も用いられています。

また、邑久町尻海では、18世紀を中心に廻船業が盛んであった。岡山藩との結びつきも強く、江戸廻米をほとんど担っていたと思われます。若宮八幡宮には、廻船業による他地域との交易を示す石灯籠が残されています。

構成文化財

本蓮寺本堂【国】	唐子踊【県】	太刀踊【県】
牛窓だんじり8基【県】	朝鮮通信使関係資料【県】	尻海のだんじり3基【市】
若宮八幡宮石灯籠2基【市】	しおまち唐琴通り	御茶屋跡

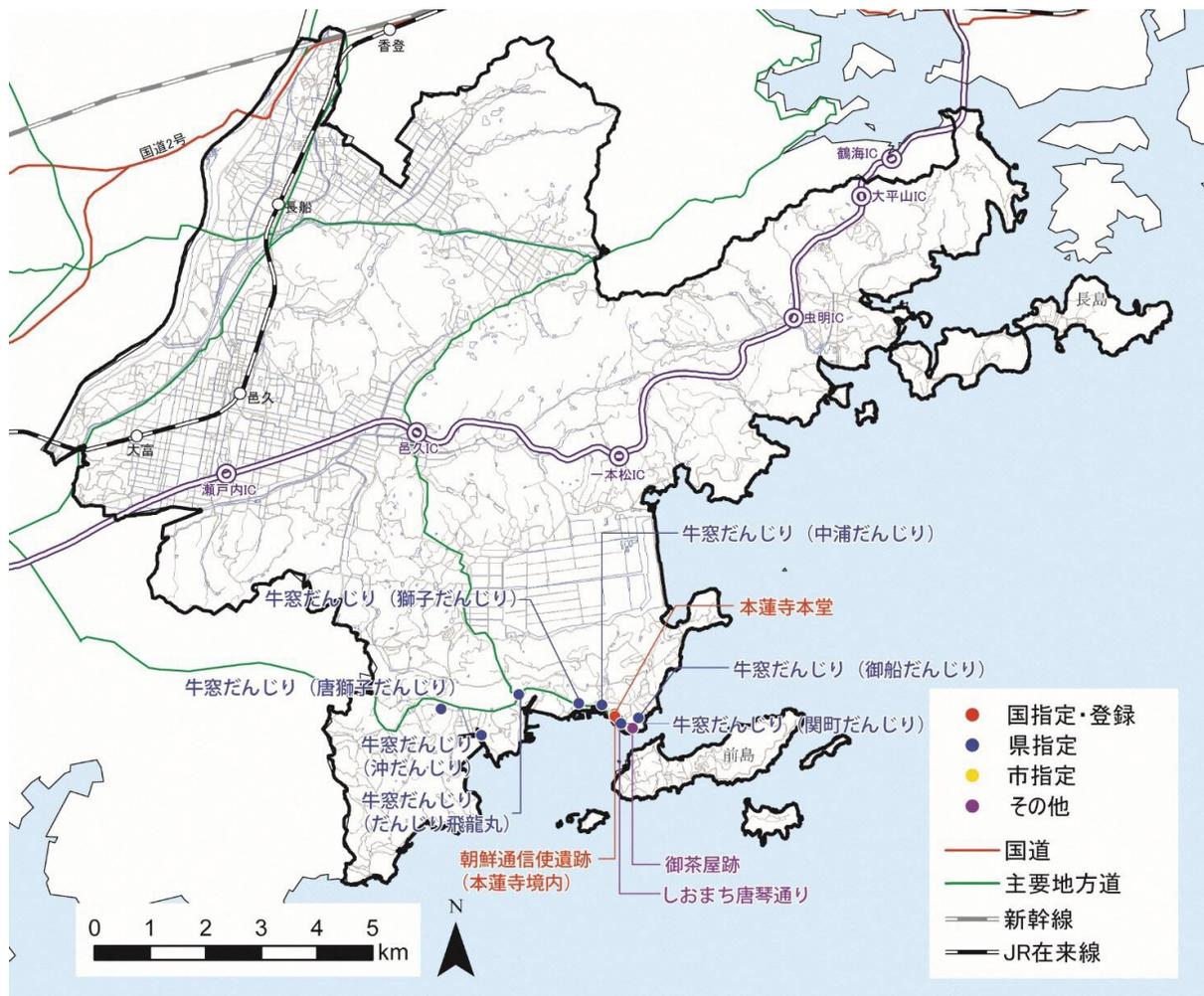


図30 構成文化財の位置

○措置

保存・活用に関する措置 ※番号：方針との対応		措置の内容	取組主体					事業計画期間			財源
			地域	管所有者	専門家	支援団体	行政	短期 (1~3年)	中期 (4~6年)	長期 (7~10年)	
朝鮮通信使調査	1-1	朝鮮通信使が牛窓に与えた影響や、当時の岡山藩や住民の果たした役割などの調査・研究をする。			○	◎	△	←————→			国・市
尻海と北前船に関する調査	1-1	江戸時代を中心とした尻海の繁栄の様子や北前船について調査・研究する。			○	△	◎	←————→			国・市
朝鮮通信使関連のパンフレット作成	1-2	学習教材としても使えるような朝鮮通信使やだんじりを中心としたパンフレットを作成する。			△	◎	○	←————→			国・市
朝鮮通信使学習機会の創出	3-1	社会教育施設での朝鮮通信使についての講座等の実施や、学校での学習への資料提供、ゲストティーチャーの派遣を行う。			△	◎	○	←————→			国・市
牛窓海遊文化館・朝鮮通信使ガイドの育成支援	3-1	牛窓海遊文化館や本蓮寺、御茶屋跡等の朝鮮通信使関連施設のガイドの育成に対して情報提供等の支援を行う。	○			◎	△	←————→			国・市
町並み景観と特産品を活かした魅力再発見と情報発信	3-2	町並みを撮影した写真展の開催や、その写真を活用した特産品の土産商品の制作を支援する。	△			◎	○	←————→			国・市・民間

※ ◎ 主体として取り組む ○ 連携、協力を行う △ 協力体制を整えておく

(4) 寺社に残る文化や政治の足跡

○関連文化財群のストーリー

関連文化財群のストーリー

弘法寺遍明院には、足利尊氏や宇喜多秀家等から弘法寺に与えられた古文書が多数残され、平安時代の仏教文化の特徴を色濃く残す五智如来坐像や、弘法寺東壽院に残る、鎌倉時代の仏師快慶の作である阿弥陀如来立像があります。また、鎌倉時代から続くと考えられている、弘法寺脚供養という貴重な仏教行事も継承されています。

餘慶寺には、平安時代の仏教文化の特徴を色濃く反映している薬師如来坐像や、戦国時代末期に建立された本堂も当時の姿を残しています。

さらに、邑久町尻海の若宮八幡宮や牛窓神社には、地元商人や町人によって奉納された絵馬が今に伝えられています。

構成文化財

五智如来坐像【国】	弘法寺練供養【県】	阿弥陀如来立像【国】
薬師如来坐像【国】	餘慶寺本堂【国】	弘法寺文書【県】
千手観音立像【国】	若宮八幡宮奉納絵馬及び模型和船【県】	

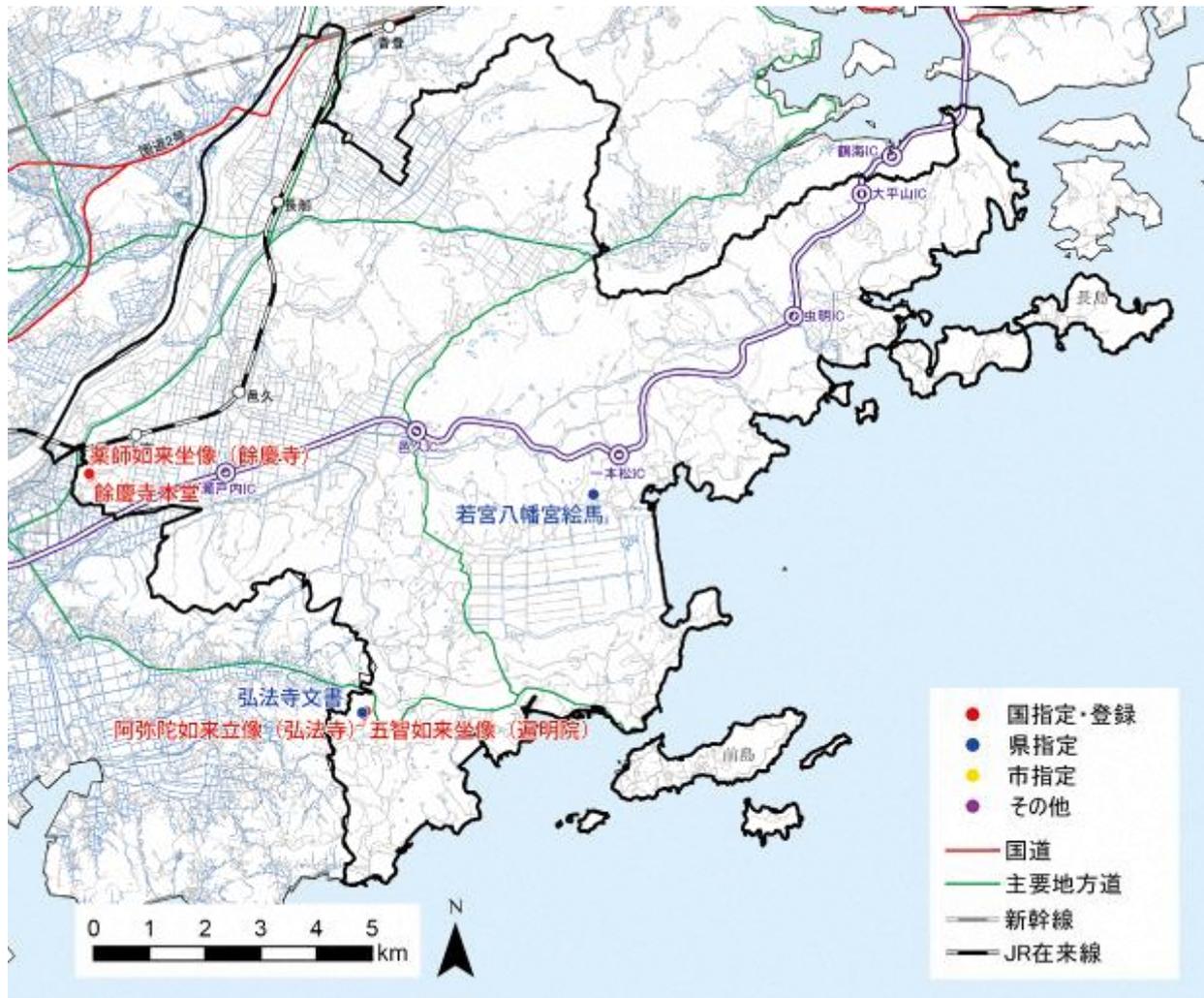


図 31 構成文化財の位置

(5) 日本刀の聖地と中世の商都

○関連文化財群のストーリー

関連文化財群のストーリー

平安時代末期以降、吉井川下流域で刀剣文化が起こり、鎌倉時代以降福岡・長船地区を中心に、日本刀の生産が盛んに行われてきました。現在、国宝や重要文化財に指定されている刀剣の約4割を備前刀が占めます。令和2年3月に国宝「太刀無銘一文字(山鳥毛)」を市が購入し、注目を集めています。現在でも、刀鍛冶、金工師・塗師等の職人が刀剣文化を継承しています。本地区には、刀剣関係の歴史文化資源として、靱負神社や慈眼院などの寺社と犬養木堂筆の造剣之古跡碑があります。

また、福岡地区では、鎌倉時代以降、大きな市が開かれたり、備前守護所が置かれたりするなど、備前国の有力な商都として栄えました。

構成文化財

太刀 無銘一文字(山鳥毛)【国】	靱負神社	慈眼院
妙興寺	造剣之古跡碑	福岡城跡
福岡の市跡碑		

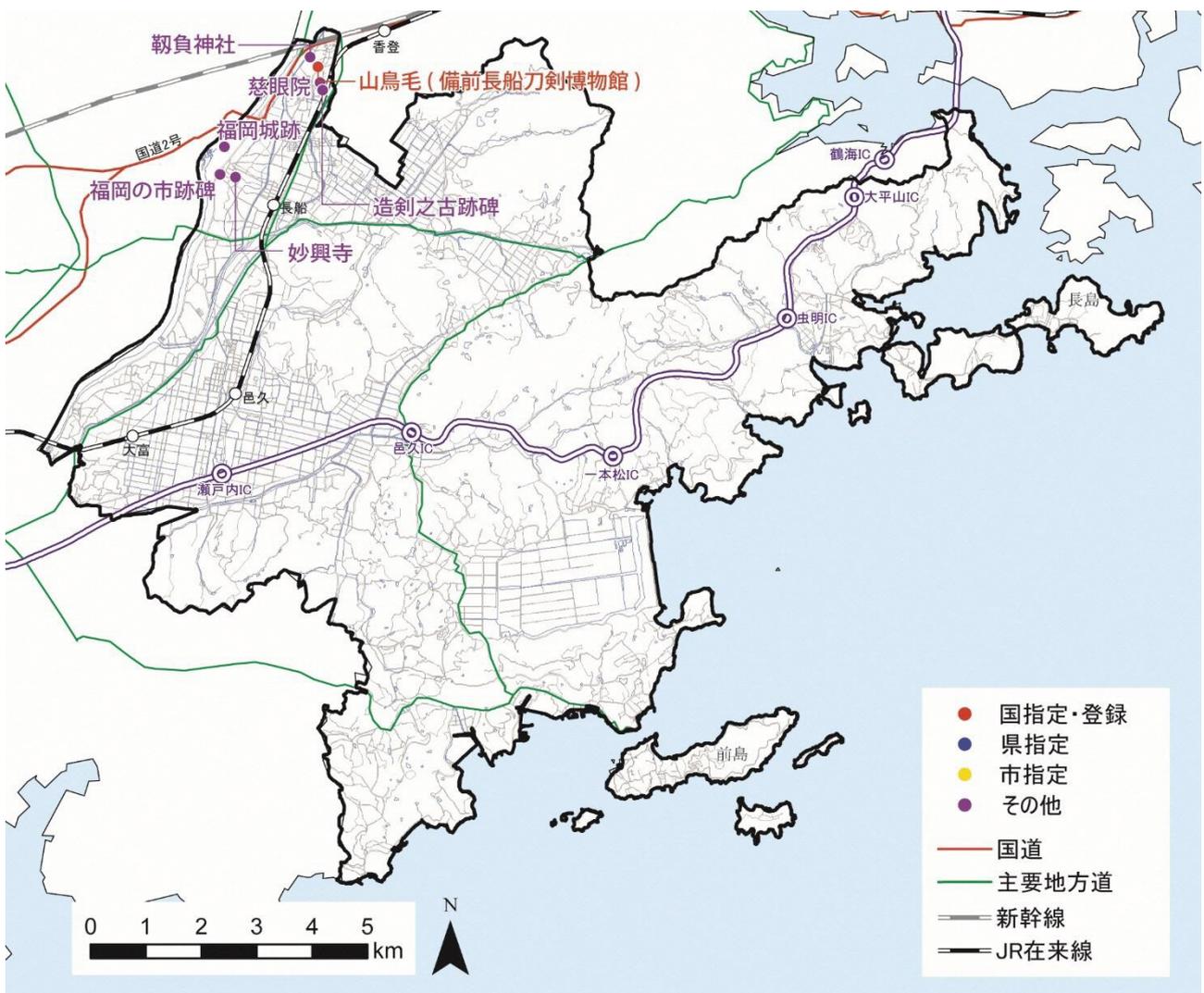


図 32 構成文化財の位置

○措置

保存・活用に関する措置 ※番号：方針との対応		措置の内容	取組主体					事業計画期間			財源
			地域	管理者	専門家	支援団体	行政	短期 (1~3年)	中期 (4~6年)	長期 (7~10年)	
備前刀学習 機会の創出	3-1	備前刀の学習に対し、資料提供やゲストティーチャーの派遣等を行う。また社会教育施設で刀剣についての講座等を実施する。		△		◎	○	←————→			国・市
備前長船刀 剣博物館に おける子ども 刀剣講座の 開催	3-1	市内の小中学生を対象とした刀剣講座を開催し、備前刀への関心を高める。		△		◎	○	←————→			国・市
備前刀関連 施設ガイド 育成支援	3-1	備前刀ゆかりの地のガイドの育成に対して情報提供等の支援を行う。	△			◎	○	←————→			国・市
日本刀製作 技術継承支 援・刀職育成	4-2	日本刀関連の様々な技術の継承を支援すると共に、技術者の活躍の場を創出し、その活動を支援する。		○	△		◎	←————→			国・市・民間

※ ◎ 主体として取り組む ○ 連携、協力を行う △ 協力体制を整えておく

(6) 中世の城館と豪族

○関連文化財群のストーリー

関連文化財群のストーリー		
<p>長船町磯上には、室町時代の島村氏の城館であったと考えられている堀城跡があり、土塁や堀などの遺構が良好に残っています。鎌倉時代以降、武士の館として日本各地に存在した方形館の一つと思われます。</p> <p>また、邑久町豊原には戦国時代の豪族宇喜多氏の居城であった砥石城跡があり、現在の岡山城やその城下町の礎を築いた宇喜多直家の生誕地と言われています。</p>		
構成文化財		
砥石城跡【市】 大賀島寺宇喜多一門供養塔	堀城跡	妙興寺・宇喜多興家墓所

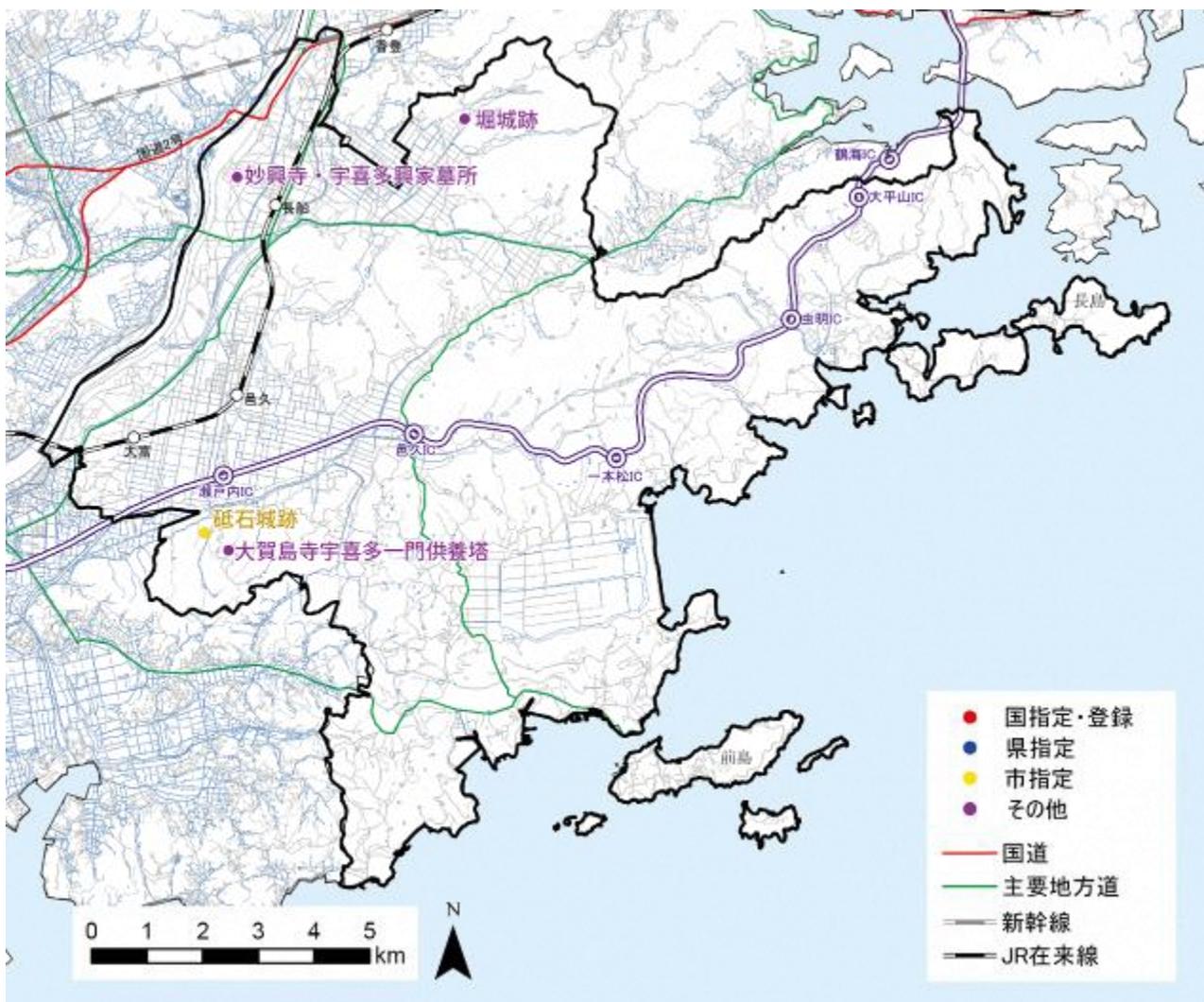


図33 構成文化財の位置

○措置

保存・活用に関する措置 ※番号：方針との対応		措置の内容	取組主体					事業計画期間			財源
			地域	所有者 管理者	専門家	支援 団体	行政	短期 (1~3 年)	中期 (4~6 年)	長期 (7~10 年)	
市内城館の調査と紹介パンフレット作成	1-2	戦国時代を中心とした市内の城館の位置や城主等の情報を取り込んだパンフレットを作成する。	△			◎	○	←————→			国・市
宇喜多家関連のパンフレット作成	1-2	宇喜家関連史跡を巡るパンフレットを作成する。	△			◎	○	←————→			国・市
宇喜多家学習機会の創出	3-1	社会教育施設での宇喜多家についての講座等の実施や、学校での学習への資料提供、ゲストティーチャーの派遣を行う。			△	◎	○	←————→			国・市
宇喜多家関連の観光商品開発支援	3-2	宇喜多家の関連商品を開発する民間事業等を支援する。	○			◎	△	←————→			国・市・民間
城館案内看板整備	3-2	訪問者に分かりやすい案内板を設置する。	◎			○	△	←————→			国・市・民間

※ ◎ 主体として取り組む ○ 連携、協力を行う △ 協力体制を整えておく

(7) 島々が産する花崗岩と文化財

○関連文化財群のストーリー

関連文化財群のストーリー		
牛窓町前島には、徳川大坂城の石垣に使われた石を切り出した跡に残された石や石切り場が確認されています。		
また、虫明や長島には近世の岡山藩筆頭家老で、虫明に陣屋を置いた伊木家の歴代当主の墓碑が残されています。これらの墓石は、前島近辺の島から切り出された花崗岩で作られており、長年を経た今でも、良好にその形をとどめています。		
構成文化財		
虫明・長島伊木家墓碑【市】	大坂城築城残石群	牛窓断層帯地層群【市】

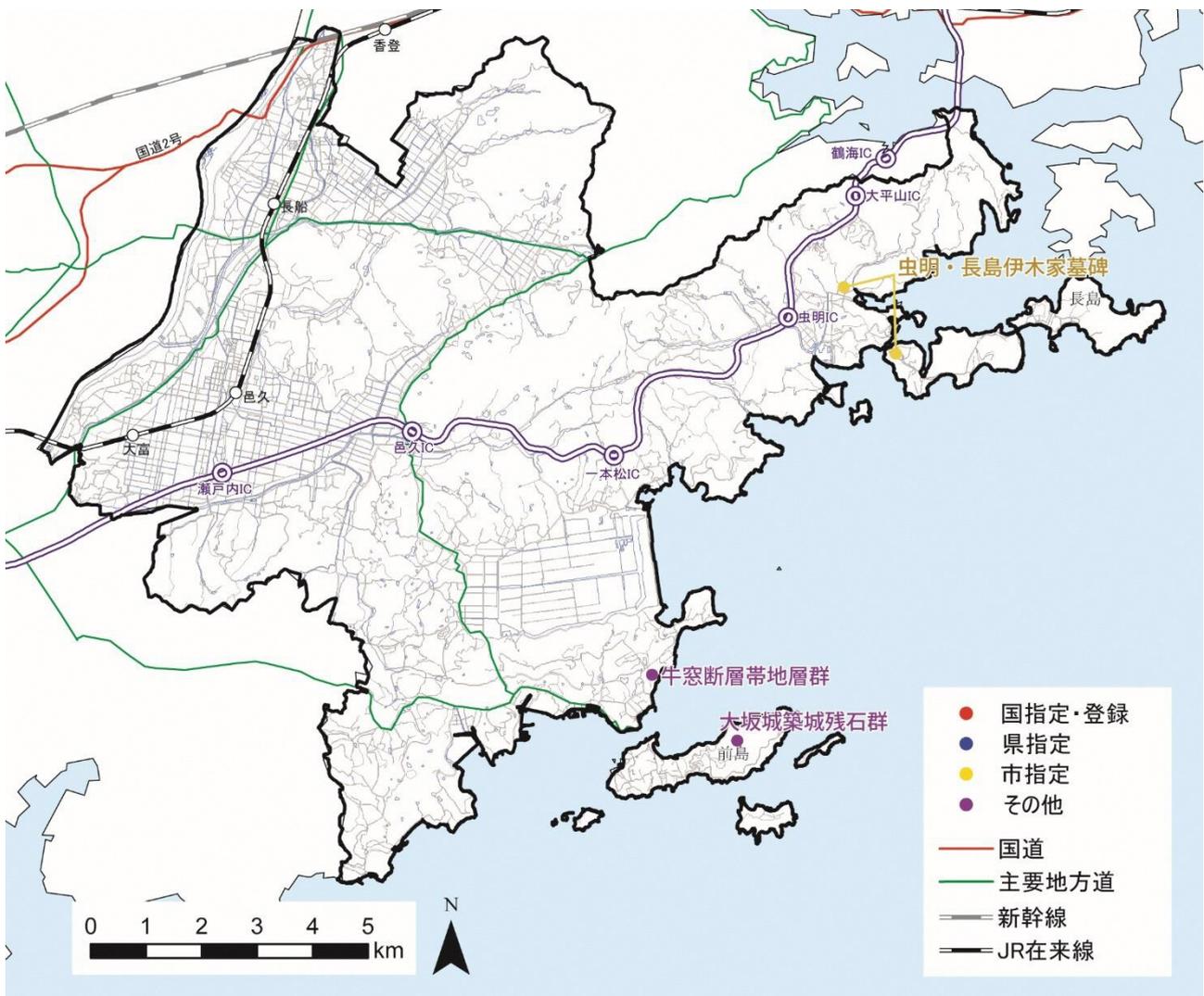


図 34 構成文化財の位置

○措置

保存・活用に関する措置 ※番号：方針との対応		措置の内容	取組主体					事業計画期間			財源	
			地域	管所有者	専門家	支援団体	行政	短期 (1~3年)	中期 (4~6年)	長期 (7~10年)		
瀬戸内海産出花崗岩使用文化財の調査	1-1	伊木家墓碑、牛窓御茶屋跡等の瀬戸内海産出の花崗岩を使用した文化財の調査をする。			○	△	◎	←————→			国・市	
大坂城築城残石群のガイド育成支援	3-1	大坂城残石群のガイドの育成に対して情報提供等の支援を行う。	△				○	◎	←————→			国・市
大坂城築城残石群の調査・整備支援事業	3-2	前島に残る徳川期大坂城の石垣を切り出した丁場の調査・整備の支援を行う。	○				◎	△	←————→			国・市・民間

※ ◎ 主体として取り組む ○ 連携、協力を行う △ 協力体制を整えておく

(8) 岡山藩筆頭家老伊木家と虫明

○関連文化財群のストーリー

関連文化財群のストーリー		
<p>邑久町虫明は、岡山藩の東の要衝として陣屋が置かれました。陣屋であるお茶屋の跡、当時の武家屋敷町の佇まいを残すまち並み、伊木家の墓所、伊木家の菩提寺で歴代当主の位牌や第8代当主忠福の木像等がある興禅寺が残されています。周辺には、第4代当主忠親が選定した虫明八景と呼ばれる美しい風景や、第14代当主忠澄が京焼の技術を取り入れた虫明焼の窯元が今も存在しています。</p>		
構成文化財		
伊木氏墓所(3代~13代)【市】	伊木家お茶屋跡	興禅寺
松本楼跡(武家屋敷)	虫明焼(68種96点)【市】	

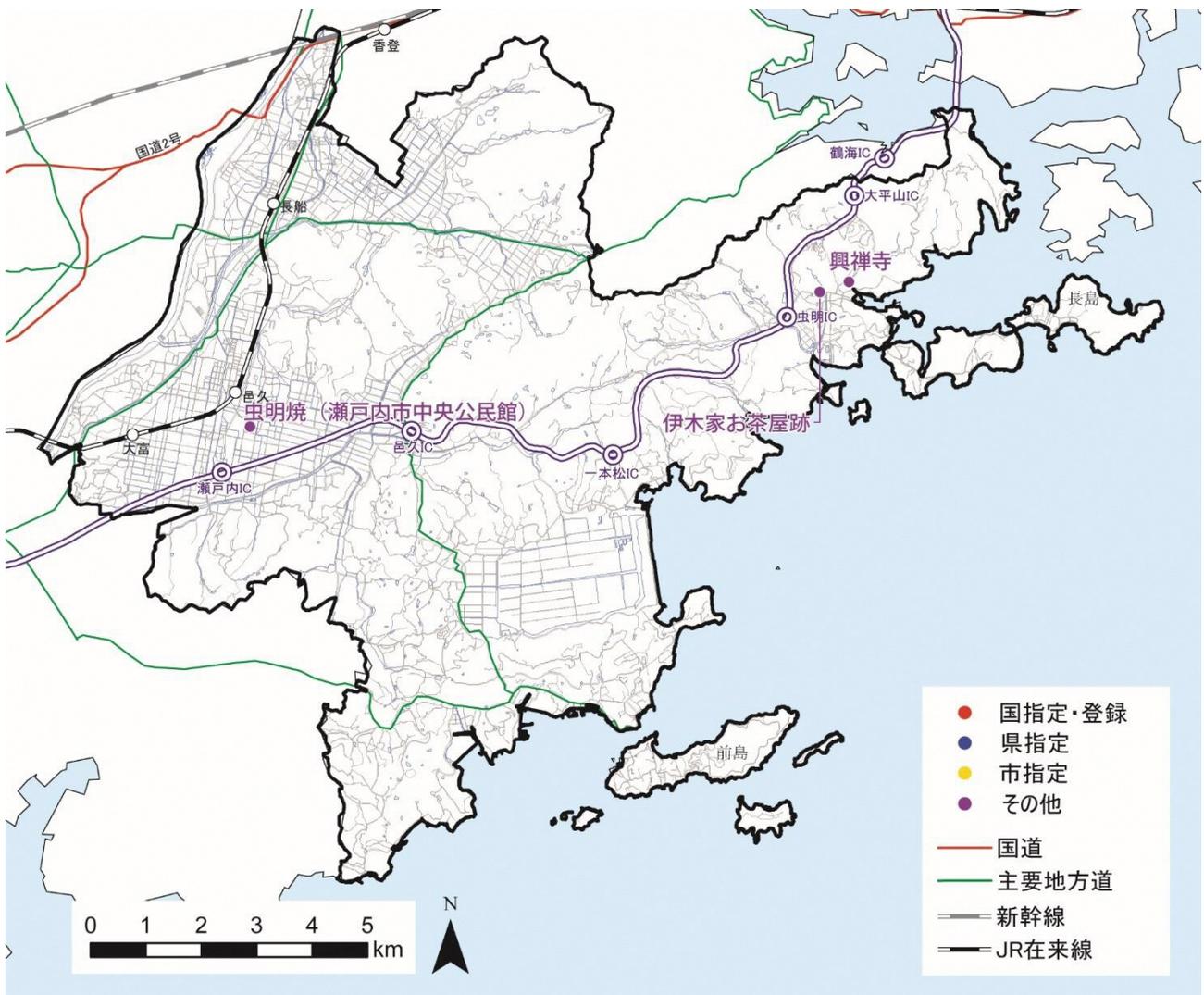


図 35 構成文化財の位置

○措置

保存・活用に関する措置 ※番号：方針との対応		措置の内容	取組主体					事業計画期間			財源
			地域	所有者 管理者	専門家	支援 団体	行政	短期 (1~3 年)	中期 (4~6 年)	長期 (7~10 年)	
伊木家関連文化財の調査	1-1	興禅寺に保管されている伊木家関連の文化財を調査研究し、適切な保存・活用を進める。		○		△	◎	←————→			国・市
伊木家関連史跡のルート作成	1-2	岡山藩筆頭家老の伊木家関連史跡を巡るルートを作成する。			△	◎	○	←————→			国・市
伊木家学習機会の創出	3-1	社会教育施設での伊木家についての講座等の実施や、学校での学習への資料提供、ゲストティーチャーの派遣を行う。	◎			○	△	←————→			国・市
伊木家関連史跡整備	3-2	伊木家墓所を中心とした関連史跡を整備し、市民等が訪れやすくする。	△			◎	○	←————→			国・市・民間

※ ◎ 主体として取り組む ○ 連携、協力を行う △ 協力体制を整えておく

(9) 明治以降の文化を生み出した人々

○関連文化財群のストーリー

関連文化財群のストーリー

邑久町本庄は、大正時代の画家で詩人でもある竹久夢二が生まれ、15歳まで育った所です。現在、夢二の生家は、作品が展示された記念館になっており、近くには、夢二が晩年に自身で設計したアトリエ兼自宅であった少年山荘も復元されています。

また、竹久夢二の幼なじみで、若山牧水らと共に、明治から大正にかけて詩人として活躍した正富汪洋の詩碑が存在しています。

さらには、邑久町尾張出身の竹田喜之助は、機械工学の知識と技術を導入する一方、造形美と構造的完璧さ等で、操り技法を多彩にし、日本の糸操り人形劇界に急速な進歩をもたらしました。日本の人形劇界では不世出の職人・技術者ではないかと言われています。市内では、複数の人形劇団が活動しており、糸操り人形劇の技術を継承しています。

構成文化財

竹久夢二生家

少年山荘

正富汪洋詩碑

喜之助人形

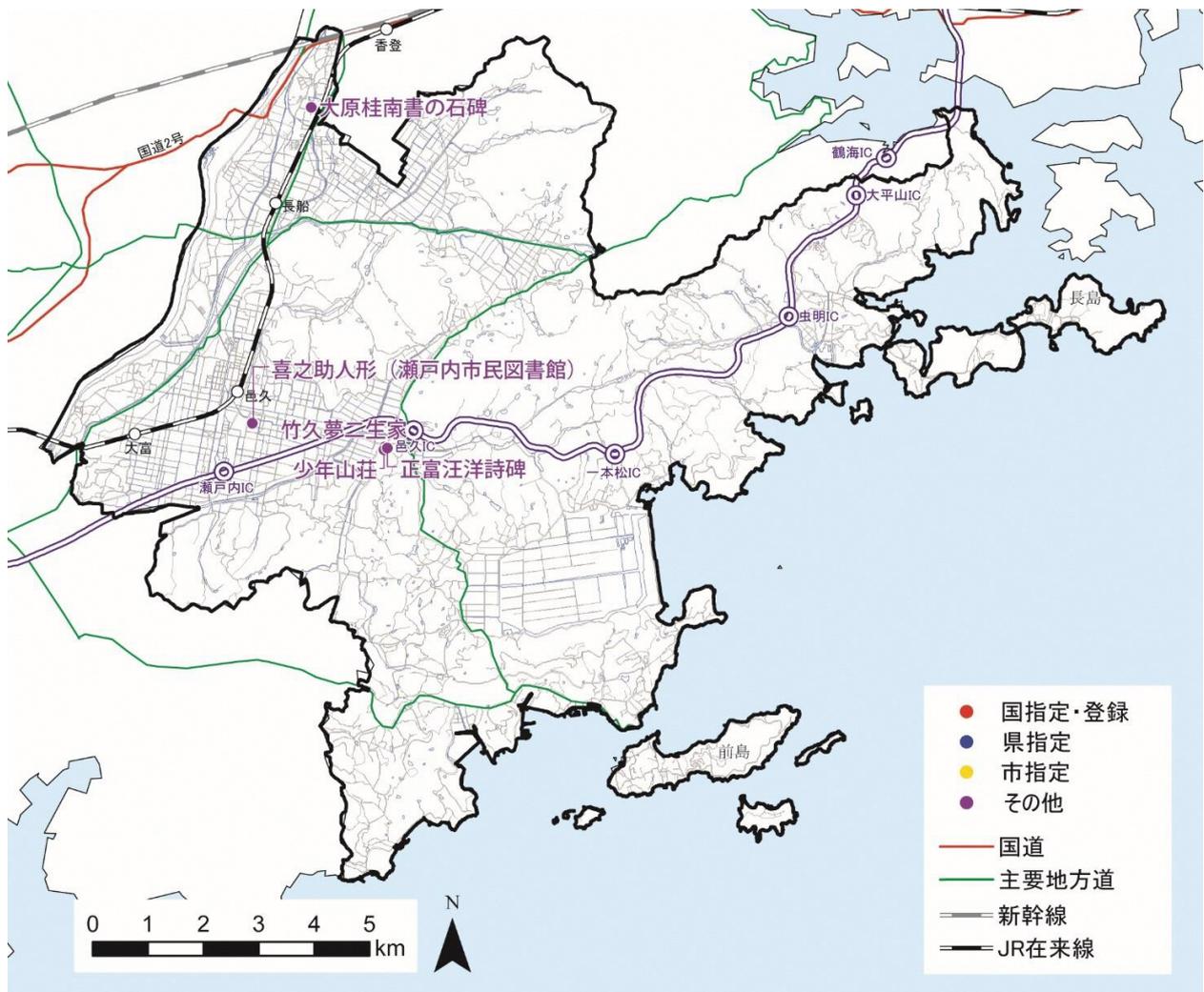


図 36 構成文化財の位置

(10) ハンセン病療養所と瀬戸内市

○関連文化財群のストーリー

関連文化財群のストーリー

日本国内のハンセン病療養所は、13の国立療養所と1つの私立療養所が現存しています。かつては離島や僻地に設けられた療養所が、周辺の都市化と既存建物の近代化により、ハンセン病問題を物語る建造物と景観は失われつつあります。その中で、長島に残された長島愛生園と邑久光明園には、歴史的建造物が多数残されています。

長島愛生園は、日本初の国立療養所であり、国家としてハンセン病隔離政策へ積極的に関与することを示した象徴的な療養所です。

邑久光明園は、前身となる外島保養院の風水害による壊滅と地域の排除により、長島に再建されました。

日本のハンセン病政策を通史として建造物で知ることができるのは長島のみと言えます。

現在は、かつての偏見や差別を乗り越えようと国と民間団体によって多様な活動が行われており、療養所に残された歴史的建造物を活用し、ハンセン病に限らず様々な差別につながる無関心と偏見の恐ろしさを学ぶ施設として活用されています。これらは、人権問題を考える上での重要な価値を有しており、人権が尊重される社会の実現に大きく貢献しています。

構成文化財

長島愛生園旧事務本館・旧収容所・旧日出浴場・旧洗濯場・園長官舎【国登】

長島愛生園所蔵史資料群

邑久光明園恩賜会館・旧裳掛小・中学校第三分校・奉安殿・物資運斜路・瀬溝浅橋【国登】

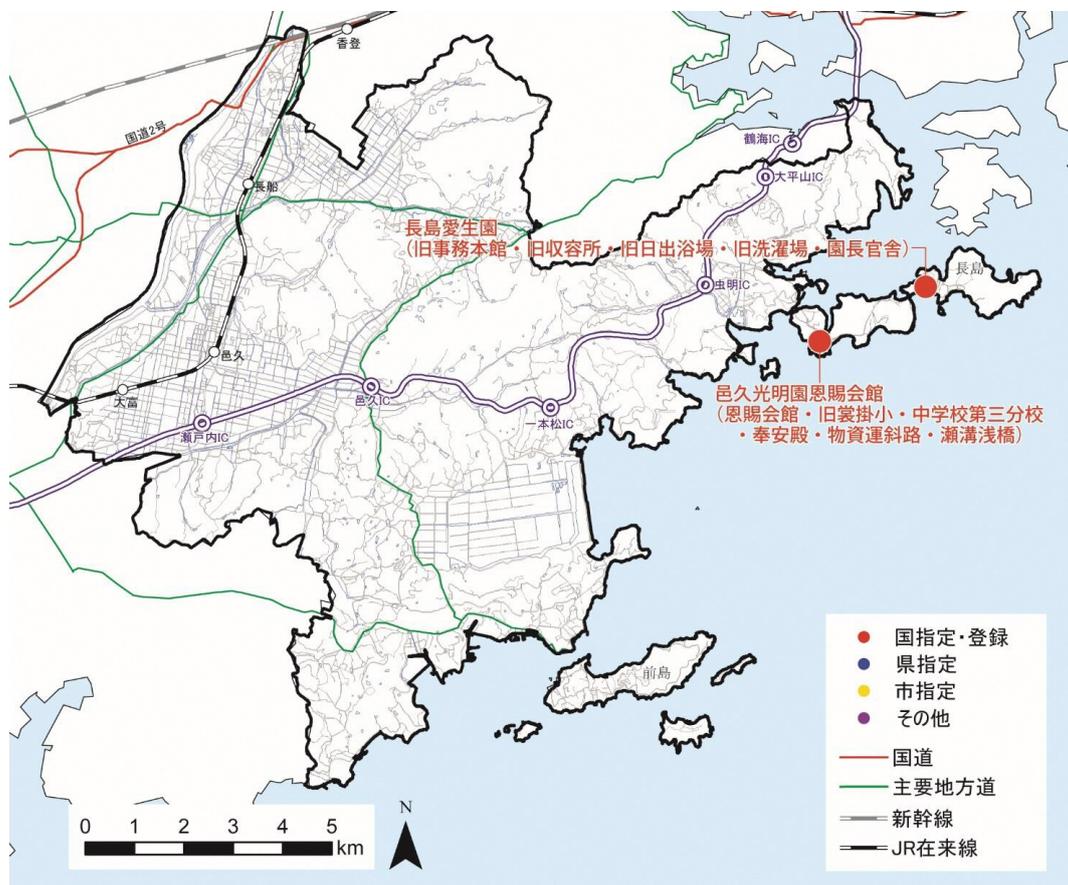


図 37 構成文化財の位置

○措置

保存・活用に関する措置 ※番号：方針との対応		措置の内容	取組主体					事業計画期間			財源
			地域	管所有者	専門家	支援団体	行政	短期 (1~3年)	中期 (4~6年)	長期 (7~10年)	
ハンセン病 関係資料の 調査・研究	1-1	長島愛生園、邑久光明園の資料館と連携し、調査・研究を進める。			○	△	◎	←————→			国・市
ハンセン病 学習機会の 創出	3-2	社会教育施設でのハンセン病療養所についての講座等の実施や、学校での学習への資料提供、ゲストティーチャーの派遣を行う。			△	◎	○	←————→			国・市

※ ◎ 主体として取り組む ○ 連携、協力を行う △ 協力体制を整えておく